



【第2弾】認知症まちづくり 地域円卓会議

認知症の方々が地域で健康に暮らし続けるために、
必要な「安心安全」について議論する

実施報告書

- 日 時： 2023年1月21日（土）13:30-16:10（受付開始13:00-）
場 所： 浦添市社会福祉センター 大会議室（浦添市仲間1丁目10番地7号）
主 催： 沖縄県認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協 力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】【第2弾】認知症まちづくり地域円卓会議



- 日 時：2023年1月21日（土）13:30-16:10
- 場 所：浦添市社会福祉センター 大会議室
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：40名（企業、行政、自営業等）
- 主 催：沖縄県認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会）
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

松田 可奈子（公益財団法人みらいファンド沖縄 プログラムオフィサー）

認知症の方々が地域で健康に暮らし続けるために、 必要な「安心安全」について議論する

認知症の方々もできることならば、自由にまちを歩き、会いたい人に会い、自宅や介護施設以外の居場所があるべきだという議論が始まっています。今回は、認知症の方々の外出に伴う安全施策のトレンドや外出と健康の関係性等を確認し、今後の施策やまちづくりのあるべき姿を議論します。

センターメンバー



松田 可奈子
公益財団法人
みらいファンド沖縄
プログラムオフィサー



志良堂 孝
宜野湾市
介護長寿課 主幹



武島 昭
沖縄県警察本部
生活安全部・
人身安全対策課



泰 真実
北中城若松病院
作業療法士
認知症ケア統括



金城 里咲子
株式会社
いきがいクリエー
ション



仲村 美涼
琉球放送株式会社
アナウンサー

<第2弾>

認知症まちづくり

地域円卓会議

地域の困りごとを社会課題として共有・共有

テーマ 認知症の方々が地域で健康に暮らし続けるために、必要な「安心安全」について議論する

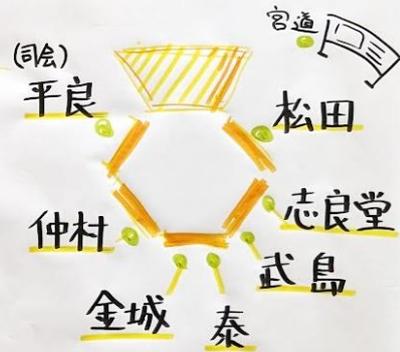
主催 沖縄県認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会)

協力 NPO法人まちなか研究所 ゆくわく

2023.1.21(土)

13:30~16:10

④浦添市社会福祉センター 大会室



論点提供

松田可奈子 さん
(公財)みらいファンド沖縄 プログラムオフィサー

2025 700万人 5人に1人(65歳以上)

認知症 - 身近な病気

これから超高齢社会

新オレンジプラン - 7つの柱

認知症など高齢者にやさしいまちづくり

若年性認知症

みまもり自販機
ミマモライド (宜野湾市)

⇒ 広域へ

安心安全なまち
外出を担保するには

休眠預金活用

5つの実行団体

北中城村 - アカバ会

西原町 - 町社協

那覇市首里 - グランパーク

浦添市 - Green Star OKINAWA

南風原町 -



道まよひ 路さくごとの減

住民の参加

居場所

ネットワーク

事業継続

まちを歩き人に会い居場所がある

外出の安全施策まちづくりについて

志良堂 孝 さん

宜野湾市介介長為課

宜野湾市
10万人・高齢者2万人(内.社居6700人)

↓
要支援 630人 2.9万人(2040年)

要介介 2601人
6500円(月) 介介保険料基準額
* 沖縄県: 全国一高い

認知症

H27 15.6% 約2500人
R.7 19.7% 約4200人 $\rightarrow +1700人$

見守りおかせり支援ネットワーク

道まよ

団体・企業
協力して
早期発見
ネットワーク

少人数・効率的
ICT-情報
リテラシー

柔軟性
高めます

広域化

多様な人との連携

道のでこぼこ

表示・色のみせ方 音も

道迷い **が社会課題と
ならない街**

ミマモライドの活用
事業の自走と継続

- 認知症の進行それぞれ
- 人々・サービス・キカンつなぐ
- 本人の状況にあわせた環境づくり
- 幅広い施策・若年認知症・
連動させた展開

武島 昭 さん

沖縄県警察本部 生活

行方不明者 キソクに基づいて

特異 ~ \rightarrow 6つに分かれる
事故・自暴キト... など
その他 ~
自暴なし
↳ 認知症含まれる

届出→受理

| 年 | 届出件数 | 認知症 | 割合 |
|-----|-----------------|------|------|
| H29 | 1052件 | 98件 | 9.3% |
| 30 | 1147件 | 110件 | 9.5% |
| 元 | 1050件 | 82件 | 7.8% |
| 2 | 848件 | 58件 | 6.8% |
| 3 | 962件 | 57件 | 5.9% |
| 4 | 1000件(23 みみ) | | |

今後23
可能性

6~10%で
す...
全国20%くら...

発見までの日数

受理は日 41人
2~7日 15人

- できるだけ早く届出してほしい
- ラジオを通じて広報(3社協定)
- 公式LINE
- 関係キカンとの連携が大事

届出 → 電話・来所
自宅へ警察官

初動
早くなる

写真
SOS
ネットワーク
登録

情報
共有し3

56件発見
790発見いたっていない

通報 21人 (49%)
自暴 13人

宜野湾市
宜野湾署

本人が認めない
ご家族の意向

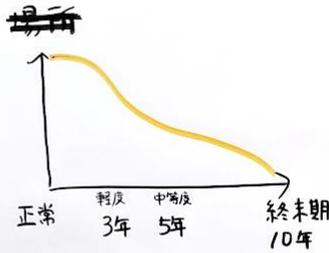
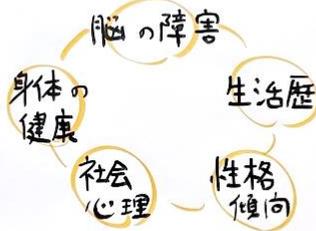
顔のみ
関係づつ
できてま
いる

泰真実さん
医療法人アガベ

進行形

認知症 - 脳の病気

パーソン・セントラード・モデル



10/1は多道迷×3回

「子防」
ゆるやかに
認知症に
そなえる
変化に弱い
医療・介護
サービス・環境かわる

5

2003年調査(県)

行動制限 ← 運動によって減

HR: 3498 → H14: 938件

認知症の進行へ

道迷いの備え

自宅での

沖縄市での道迷い
大雨の日、無人島、ネットワークの外。
ポートにの、た人が発見

- 種類によって症状異なる
- 馴染みの関係づくり
- 行動制限外す
→ 笑顔へ (外出制限も同じで)
- 効率的なそうさく
- そうさくシステム・福祉用具の啓発

いつでもどこでも
普通にくらす
住み変えた
地域で
馴染みの
関係の中で

金城里咲子さん
株式会社いきがっくろ エーション
いきがいのまちデイサービス美里 生活

Aさん 70代 女性

混合型認知症 介護保険サービス利用
物動できる

ひとつひとつの動作忘れてしまう

家族の認知症への理解必要

夫がひとりがかかえている

自宅の住所言えなくなってきた

安心登録をした。

本人だけでなく、ご家族の理解

→ 知ってもらうキカイづくり

A&Wとのコラボ・認知症カフェ

コミュニケーション

まちの駄菓子屋

保育園の交流

ひとりで見れるから大丈夫

みとめたくない

いろいろ(ケンゴ) 罪悪感

SOS

サービスの逃げ場のない中での

たよれる
(関係性)

サービスだけでなく
まちの中で

仲村 美涼 さん

地域の居場所づくり

→ 災害時の心強い味方に

災害弱者

分散避難

繁々の川の防災拠点
三宝邸

水

食料

せまい道 MAPづくり

まちを知る

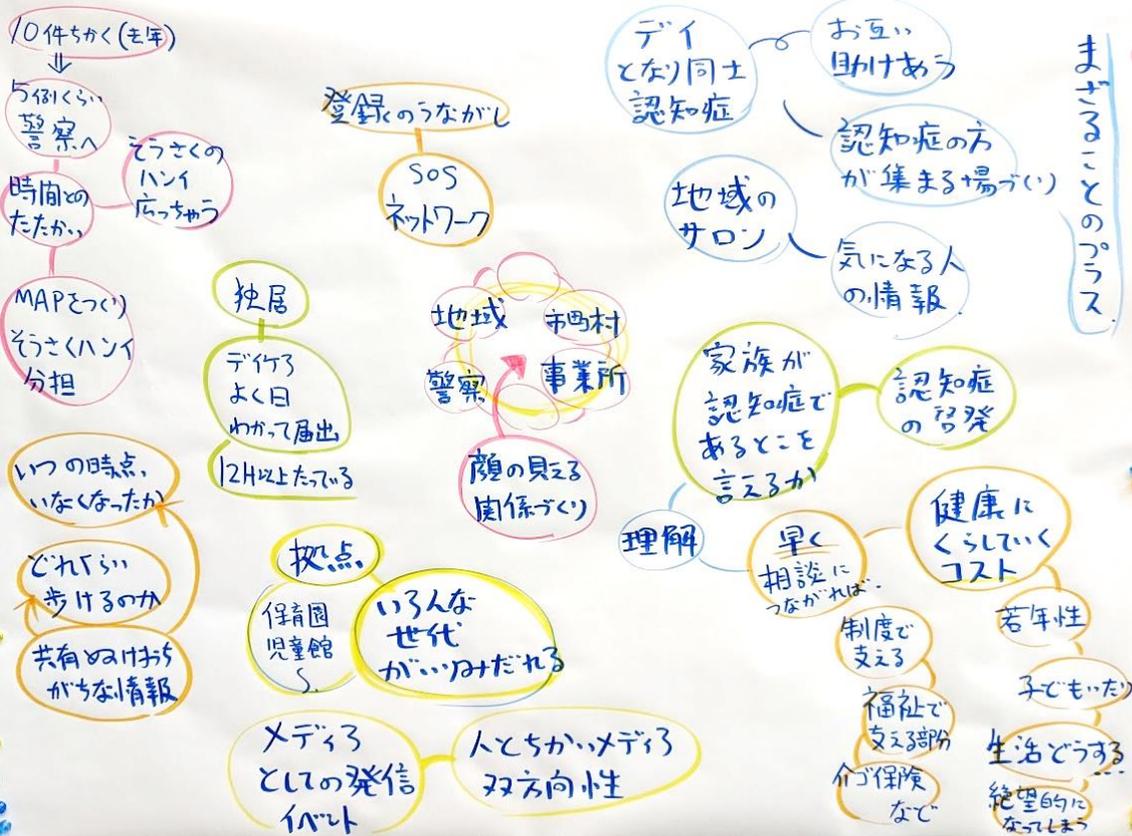
高齢者の活躍の場づくり

公民館

社協

認知症に備える
という発信

ラジオと警察など
そうさくの連携



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 住民が、誰もが当事者になりうるという意識をもって認知症の特徴を理解し、認知症に関する悩みや課題を地域で相談しあえる関係をつくり、その先の制度にも速やかに繋げていける環境を構築していく
- 2) 外出することが、認知症の方々のストレスを緩和する効果があること、それが症状の安定や医療コストの削減につながるということを意識しながら、行政全体施策ともつなげたまちづくりを推進すること。
- 3) 認知症の方の外出がどれだけの死亡事故に繋がっているのか等の実態をデータ収集、リスク分析し、施設や自宅における身体的な拘束を減らし、当事者によりそったまちづくりを推進していくべき。

■参加者によるサブセッション

認知症の方々が地域で健康に暮らし続けるために、 必要な「安心安全」について議論する

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・「知識がない」ことに対しての不安
- ・家族の認知症が心配
- ・「分散型」でそうさくをするのは大変！
(背景、理由、習慣)
- ・行政→発信しても＝そこで終わり（フォローがない）
- ・形をつくるまでが大変

②

- ・症状が軽いときはOK だが、場所が変わると認知症悪化
- ・(農業) 農地は変えずメンバーも変えずに農業ができないか。
若年性の方を対照としている。
作物もしっかりと品質を上げて、選ばれるものにしていきたい。
- ・自分ごとにするのが難しい。
- ・まずは備えることからはじまるなど感じた。
- ・人材問題！
- ・地域のことを事前に知っておく
- ・福祉について地域の活動を知っておくことが必要なのでは。

③

- ・認知症に備える
自分事として考えられる
- ・本人の気持ちで進行状況が違ってくる

④

- ・認知症要請講座
字ごとに！マイクロにひろげる！
- ・マイナンバーカード普及
個人情報の問題はあるが何かあったときに、すぐに対応できるような体制。
認知症りれき
個人情報と命のてんびん
- ・SOS ネットワークのきばん
- ・災害弱者家族のデータ→データベースに残す
自己申告制になるとスピーディーな対応ができない
認知症のデータを共有する仕組みづくり
- ・介ゴ士 認知症買介ゴ研修にかかわっているが、祖母アルツハイマー発症 20 年、10 年在宅ワーク安心
- ・「地域」のことばがアバウト
- ・みまもりは自治会レベルで
- ・SOS ネットワーク（地域包括単位）の普及も自治体によって異なる
- ・全県広域連携
- ・フリー介ゴ 5 年、以前介ゴ現場 20 年以上
介ゴ講師、研修している
- ・一般の方へどう周知していくか
→全体にひろげるべき
- ・災害弱者との接点でひろがる
- ・医療、行政、けいさつ連携、まきこみ力
- ・地域ごとの課題、発信、繋がり
- ・認知症まわりにはいないけど認知症 5 人に 1 人
- ・各分野がつながると制度
- ・ICTなどの新しい技術、データベース
- ・すばやい連携手段、旗振り役

⑤

- ・ 家族や周りの人の理解
- ・ 施設のスタッフを支える
- ・ 事故
- ・ お互いさま
- ・ 障がい→社会→人
- ・ 安心安全とは？
- ・ 役割
- ・ 能力、才能
- ・ 居場所（参加）安心安全→その人らしさ

⑥

- ・ 攻めき性：身近ほどはなれるケース
- ・ 本人の得意なことを発表する場、環境
- ・ 安心安全な場の確保
- ・ 家族に本人の生き生きした場面の提供
- ・ 今の認知症理解と昔のイメージの違い
- ・ 子どもへの認知症理解啓発活動

⑦

- ・ 警察の情報をきけてよかった
- ・ 連携の方法（個人情報）どうやったらいいの？
- ・ SNS の時代なので一度出した情報をどう扱われるのか心配
- ・ 地域とのつながりを持つ事がむずかしい
- ・ いろいろいわれるのが嫌という意しきをかえる
- ・ 認知症カフェ等に一般の方が参加するのは難しい（しきいが高い）ので、もっと認知症をしってもらうにはカフェ等の様子を配信してみるのもいいかも
- ・ ことばかけ

⑧

- ・ 道迷 みつからない事多い
- ・ 徘徊→「道迷い」が当たり前？
- ・ 「備え」予防ではない
- ・ 病気へのりかい
- ・ 一年前～地域も知ってた、目撃がなくラジオ、SNS、家族会、2回目のレンラク
- ・ けいさつ犬、でるの多い
- ・ におい、状況による
- ・ ドローン（サーモ）低体温だとさがしづらい
- ・ 離島：ドローン訓練
- ・ こうそく→工夫とは？
- ・ 症状に合ったケアでは？
- ・ 施設入所時相談
診断に合ケアアドバイス
- ・ 人数報告 途中できけなくなった
（情報交できなくなった）
- ・ 個人を特定するものでなければ
- ・ Fa が届け→パチンコ
- ・ 徒歩はさがしにくい
- ・ いつまでとはなし
- ・ 公式 LINE
- ・ テレビ、ラジオ→ノーギャラ

⑨

- ・安心安全
- ・以前のそうさくの時
発見のきっかけがあればよかった
- ・認知症
- ・ラジオとメディア、警察と現場、
連携が見えた
- ・知らない、まわりにはいない場合、どう貢献できる？

→地域の方のみの事業所

- 小規模、多機能
- 物的、人的環境変わると不安
⇒変えないようにしている
- ・スタッフに対しての勉強会
- ・家族、利用者、当事者の声
- ・安心して暮らせる町→制限されない町
- ・だがし屋など
役割をもつ→居場所→自分の中の居場所
- ・誰かとつながる
- ・北中 みまもり登録事業
14自治体 対象10名くらい
- ・包括+警察+社協
- ・自治体がその人のことを理解している
- ・その人を知る→理解する
- ・事業所と連携

⑩

- 家族と地域の人が声かけて助けられる仕組みがあったらいいな
- ・昔の時みたいに互助でお互いやさしい地域の人が地域を守る時代にできたらいいな。
- ・おとなりさんの顔が見えない。
- ・認知症に対しての地域の理解もあつたらいいな。
→イメージが「はいかいする」「こわい」など
- 「道まよい」初めて知った。
「はいかい」と使っていた。by 障害分野
- ・新しい認知症感を感じた
- ・障害分野でもプッシュできたら
- 自分の祖父母もそうになったら
- ・周りの人が介護を理由に退職する人もいる
- ・拠点づくり→防災づくり
- ・マンション内での道迷いから、トラブル
きっかけで住民の理解がある
- 6H
- ・道迷い→本人からしたら必ず理由がある
→我ママ勝手に「徘徊してる」と決めつけて
→理由聞いてから、「どこ行くの？」
- ・家に帰ろうとしてるだけ
- ・散歩してるだけ
- ・どうにかならないかという思いで包括に転職

⑪

- ・感動した!!
- ・円卓を通じて自分事になった
色々な立場の人がその視点を提供してくれる
のが距離感をちぢめた。
- ・関係者の選び方が絶妙
- ・どうやって誘うのか!
- ・円卓参加者から着席者へ
- ・しゃべりたくなる会議
- ・想像力をかきたてられる、想いを強くする
- ・インプットとアウトプットのバランス
- ・行政として出してもらいの難しそうに感じる
けど…
- ・財団の信頼感
- ・自分に最後戻ってくる
- ・認知症これまで関わりが薄かったけど
若年性認知症
- ・気持ちよすぎる!!
- ・興味関心なかったものが、円卓後もてる。
- ・あらゆる方面の方がいたのが良かった。
- ・課題感なかったけど入りこめた
- ・フラットに色々なお話を聞ける場
- ・場が荒れない
- ・安全・安心感
- ・設計がすごい
- ・色々な要素がちりばめられてる

⑫

- ・認知症の方が全国に 3.2×沖縄人口もいる現
状
- ・祖母：深夜徘徊の姿
今は外で話せるようになってきた（オレンジ
カフェ etc…）
- ・新オレンジプラン政策だけでは足りない
- ・子ども、若い人は認知症わからない。学童が知
る機会をもつのは大切
- ・月に1回のペースで（いきがいクリエーショ
ン）認知症カフェ
- ・当事者の参加が課題…抵抗のキモチ
（だいたいの参加は当事者）
- ・認知症はマイナスイメージ…そこをかえると
ころから
- ・区会長…認知症カフェ、高齢者カフェ
- ・男性認知症のかた…男性同士スタッフも入れ
て性的娯楽の会も
- ・名称、イメージをかえる

⑬

- なぜその人がセンターメンバーなのか
- ・何回目くらいから形ができたのか?
 - ・センターメンバーがいない時、
- ※課題が社会に認識されていない時
- ・課題（ストックされた）の優先順位
 - ・着地点をどの程度想定?
 - ・オーディエンスとしてストレスがなかった
 - ・内容にひきこまれた
 - ・多様な参加者
 - ・様々な活動は成熟
- ステークホルダーの連携のフェーズ
- ・小さい課題の多様性の担保

⑭

- ・安心・安全とは？
- ・サポートされる人はどんな状態でもいい？
- その人たちの人権は？
- やろうと思えば変えられるけど、変えようと思わないと
- ・円卓着席者は当事者として話している
- 参加者のために話していないから参加者も
- ・水資源
- 専門用語多発。いろんな人が変わる
- 平良さんが聞き変えしたり
- ・課題をどう理解してもらうか
- ・台本は？
- ・行政、素案がある
- みんなが発言することにはならない
- 円卓、論点、評価が整理できる
- ・テーマと着席者のつながりが見えやすかった
- ・サブセッション、センターの人が入るのも重要
- ・誰しものが当事者になる
- ・センターテーブルはどういう視点を重視して選ぶ？
- ・円卓会議の場では結論を出さないけれど参加者に対してどういう展開を期待しているのか
- ・10日前にアサイン→どこまでのん？
- ・参加者の名簿はあえて共有しないのか
- どのような立場関心を持っているか共有できていると視点が広がるのでは？

⑮

- ・デビュー戦
- みにいく人とはちがった
- ・じゅんぴ 70% ここが知りたい
- ・オンラインとはちがう LIVE 感
- ・さんかしてみてもわかる納得度
- ・よくデザインされている
- ・課題共有会議（柱）
- ・何をしたら？マニュ通り
- Q1.準備 7 割の内容は？
- Q2.連続でやる場合のテーマ設定のポイント
- Q3.追加調査であるタイミングや調査内容
- Q4.終わったあと参加者の変化や追跡、その後…
- Q5.ファシリテーターの前の知識
- 誰でもできるの？

【第2弾】認知症まちづくり地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

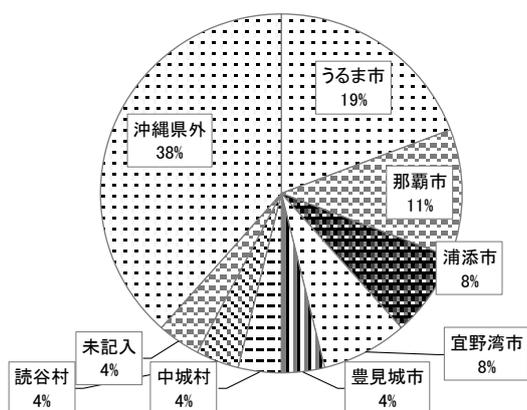
- ・日時：2023年1月21日（土）13:30-16:10
- ・場所：浦添市社会福祉センター大会議室
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：40名（アンケート回収26名、回収率65%）

4. 満足度

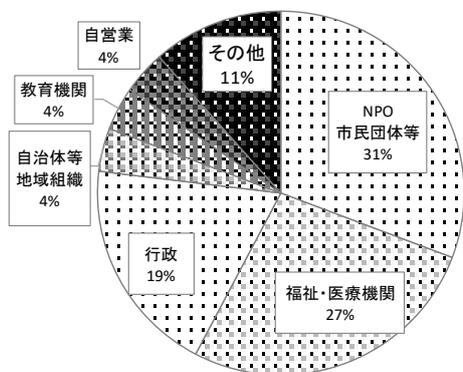
平均：4.9（5点中）

| 5. 満足 | 4. 概ね満足 | 3. 普通 | 2. あまり満足していない | 1. 不満足 |
|-------|---------|-------|---------------|--------|
| 23名 | 3名 | 0名 | 0名 | 0名 |

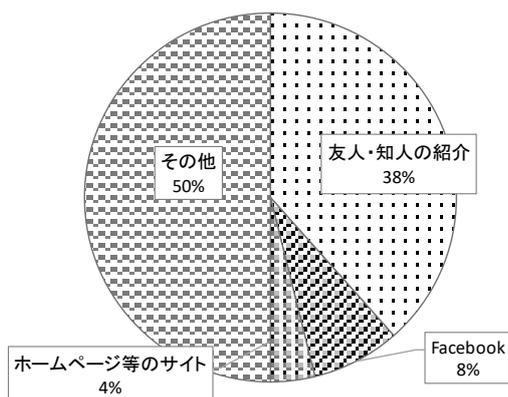
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 知識が深まった
- ・ 伝えたいことを伝えることができた
- ・ これから必要なこと、やることがわかった
- ・ 認知症のある無いに関わらず地域とつながり、住み続けることができるまちづくりの大切さを再認識する機会になったこと、また県外からの情報を得ることができる機会になった
- ・ 難しい話を教えてもらう（聞くだけ・流すだけ）ではなく様々な視点があるからこそ考えながら参加できる点
- ・ 平良さんに以前北中城へ来ていただきましたが役場直営包括ということでみまもライドを断念、若松・・・お願い・・・と祈っておりましたが話が進んでうれしかった。道迷いの方の支援を日々あの手この手で行っていますが住民さんの力に助けられています。行政としてツールを本格的に考えないと思った。
- ・ 論点提供、セッションⅠ、サブセッション、セッションⅡ、ふりかえり、まとめの流れのボリュームバランスが適格でわかりやすかった。
- ・ 認知症の方に関わっている方々の話、事例を聞いて、認知症当事者や家族に対する認識が変わりました。周りに当事者がいないですがいつ自分の親や自分になるかもわからない。自分事として情報収集や発信できればと思いました。

- ・ 論点整理が適確でわかりやすかった
 - ・ ・色々な視点で論議できたことでとても勉強になった
 - ・ 多種多様な意見が聞けて、どれも具体的に自身の行動に活かせるものばかりでした。
 - ・ 自分の親や自身も認知症になる可能性がある。しかし、これまであまり知る事のなかった分野だった。円卓会議の自分事にする(なる)実感を得ました。
 - ・ 「沖縄式地域円卓会議はこういうものなのか！」と感動しています。着席者として様々な立場の方が参加されて、しかもその方たちが真剣に課題を解決しようとされている姿に心うたれました。私も司会や記録ができるようにがんばります。
 - ・ 多くの業種、職種の情報がとても参考になった。
 - ・ 今まで地域の課題を感じていなかったことに感心がもてるきっかけとなった。有識者(あらゆる立場の方)からお話をうかがいながら、感心があるオーディエンスの方々と話を深めることでより理解が深まった。
 - ・ 昨日から2回目の参加でした。昨日注意していなかった部分が多く見え勉強になりました。
 - ・ 今日で2回目の円卓会議参加でした。2回目にして自分なりの参加のヒントを得てとても学びになりました。センターメンバーの皆様、参加者の皆様の地域や大切な人のために参画している、発言している姿が印象的でした。
 - ・ 知らない事を知れたこと。地域の人々がお互い関わるのが大事で地域づくりをしていかなければいけないと思った。
 - ・ 今日のテーマの認知症の方々の外出に関する議論が十分できなかった点がちょっと残念
 - ・ 現状や今後の課題などまだ知らない事がいくつもあり参考となりました。
 - ・ 関連支援者からの情報発信、特にどうあっていけるといいという目標を発信してくれることで、地域としてもアンテナをはることができる。
 - ・ サブセッションで他県の方と話す事ができ、共感、新たな発見があり勉強になりました。
 - ・ ・平良さんの司会、最高でした。お疲れ様でした。
 - ・ 着席者の方からも学びをたくさんもらいありがとうございました。
 - ・ 普段、周りに当事者がいないため考えるきっかけになった。
 - ・ 自分の仕事で参考になる話が多かったです。とても勉強になりました。ありがとうございます。
 - ・ 色々な方の話を聞くことが出来たことで気付きや視野が広がった。行政だけでなく地域の声や起業、NPO 団体、医療、当事者、家族、メディア、皆が同じ立場で話し合える場があることを嬉しくおもいます。ありがとうございました。
- (4. 概ね満足)
- ・ 知っているつもりでいた認知症、知らないことがたくさんありました。学びの場を楽しめました。サブセッションも想像以上に楽しめました。
 - ・ 宜野湾市のうまくいってる対策は参考になりました。武島さんの話も全体像がわかり、又、とにかく早く連絡をとというのがひしひしと伝わってきました。泰さんの脳の障害される範囲の説明がとてもわかりやすく、そこをおさえてるかどうかは大きな対応の違いになると思いました。
 - ・ 松田さんは専門的？カタカナとかがちょっと多くて話がすんなり頭に入りにくかったです。
 - ・ 色々話が聞けた
 - ・

・ 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 認知症予防→認知症に備える
- ・ 役割、できること、才能を活かす
- ・ 生きがいつくりと居場所づくり
- ・ 認知症高齢者の事故死亡率と、一般事故死亡率の比較から、外出できる理由のつながり
- ・ 認知症予防=備えること（最初の段階で正しい理解をする）
- ・ 認知症は身近な病気（5人に1人）
- ・ 認知症に携わっている方々から明るい視点の啓蒙と、当事者たちが（本来は市民全員ですが）不安を持たず、支援につながるプラットフォームの整備
- ・ 事故など不安要素を丁寧にピックアップして対応を一度決める苦労
- ・ 「居場所づくり」です。いつか自らやっていきたい
- ・ 様々な立場からのアプローチ方法がある中、自分は・・・と改めて考えることになりました。全てのアイデアに感謝します。
- ・ 3/2も参加します
- ・ 予防ではなく備え
- ・ 徘徊ではなく道迷い
- ・ 住み慣れた地域、馴染みの関係でふつうに暮らす
- ・ A&W 認知症カフェ
- ・ 101歳の修道女メリーさんの事例
- ・ 「安全」は防げないこともあるが「安心」はつくることができる。当事者、家族、支援者だけの課題にせず、いかに地域に拓いていくか、言葉の使い方（認知症に備える、道迷いなど）も大事だなと思いました。
- ・ ①データの多さ、分野を超えての意見交換方法
- ・ ②オーディエンス参加のタイムがあつてよかった
- ・ 災害弱者の視点、ソフト面での課題、情報を知る、知らない、備える、など印象的でした。
- ・ 行政、警察、事業者、メディア、あらゆる立

場で考えられる連携の意識を感じました。

- ・ 認知症の方の言動には、意味が背景、習慣などきつと理由があるのだと思いました。
- ・ 模造紙でまとめてふりかえる、自分でひかえたメモよりさらにイメージしやすくインプットしやすかったです。
- ・ 認知症はなってから考えるのではなく「そなえる」ことが大切。それにより地域の理解や認めることができるようになってわかった。
- ・ 認知症「予防」ではなく「備える」、介護、健康、すべてに共通する大切な感覚だと思った。
- ・ 抑制は外出制限も含まれるのでは？は、ハッとさせられました。志良堂さんの認知症には（介護分野には？）経済支援がないという話、確かに。障害年金があてがわれるとか認知症年金？みたいな一時金でもあるといいですね。
- ・ 認知症の理解を広め、自分ごと（いずれは・・・）として住み慣れた地域で制限なく暮らせるシステムを考えたいです。本気で!!
- ・ 関係が深い地域であればあるほど、家族が認知症であることを周囲に伝えられないケースがあり、しかし「認知症が悪いものではない」という啓発が重要であるということ。社会が変わること、人の価値観が変わることの重さを感じました。
- ・ オレンジカフェ等、認知症の人のことを実際に話して理解できると思う。本人、本人の家族のが同意したら配信や気軽にはいれるところで一般の人もよんで行う事はいいと思った。認知症を子供の頃から正しく知ってもらうことで道迷いが減ると思う。
- ・ 予防ではなく「認知症に備える」ちいう考え方
- ・ 誰もが本人や Fa として当事者になりうるという現状の理解
- ・ 備える仕組みを共有していくには…。
- ・ 地域を地域で支える体制が当たり前になることが理想

- ・ 「予防ではなく備える(準備)」という事は誰もが自分事として考えるきっかけになり得るので、もち帰って地域に広めていきたい。
- ・ オレンジカフェのあり方の見直し→金城さんの話の中で A&W とコラボしているという事があったので、地域の喫茶店等の活用を検討したい。(winwinな関係づくりを目指したい)
- ・ 予防→備えるなどの価値観や捉え方の変化
- ・ 当事者の周囲がいかに関知症について理解していくか
- ・ 予防→備え
- ・ 認知症予防ではなく、認知症に備えると言うようにしようと思います。道迷いが無い社会を作っていくなど。

(写真) 会場の様子



✓ 感謝した!!
田島を通じて自分事になった
色々な立場の人々の視点を捉えたい
<勉強> 距離感を感じた。

✓ 関係者の選定が大切
どこまで話せばいいか
田島さんや本島先生さんへ

✓ レポート作成の会議
報告を聴かされたら、話を聞く
心算と期待感の両方
↳ 学びたいと出てくるの難しさに
気づくこと
財団の依頼感
✓ 自分に最適なところ

松田さん テビュ一 選定
(お礼状) ありがとうございます
——
<お礼状> (お礼) 70%
——
いらいさん オンラインではからLIVE
(お礼) たくさんお礼状が 納品
—— <デザイン> ありがとうございます
マラさん 課題は不完全 (桂)
(お礼) 何ですか? ありがとうございます。

- Q1. 準備の7割りの内容は?
- Q2. 連続でやる場合の
テーマ設定のポイント
- Q3. 追加調査するタイミングと
調査内容 前回の調査の
結果を踏まえて

- ・ 本ゼミはその人がセンター
メンバーなのか。
- ・ 何回目くらいから
形式が変化したのか?
- ・ センターメンバーでない時
必修課題の社会に認識が
いかにあるか
- ・ 課題(ストラクチャー)の優先
順位。
- ・ 着地点をどの程度想定?

- ・ 安心、安全とは?
- ・ サポートされる人はどんな状態でしょうか!!!?
→ その人たちの人権は?
→ やり方を変えれば"変えられたい" 変えたい
思わないと
・ 円卓 ~~参加者~~ ^{出席者} は 当事者 意識で
→ 参加者のために話し合いから参加者
と
・ 水資源
専門用語を9A 課. いろんな人が
ある
○ 平良さんが聞き覚えした
・ 課題を整理してもらう
○ 台本は? 喜劇が2
・ 行正年 → みんなが発言するこじこじはならない
→ 円卓, 着地点, 各評価が整理でき
→ 1-2と出席者の加工が早い方がいい
○ 1-2と出席者の加工が早い方がいい